

白十字会百年 八国苑二十五年



月曜日担当 作業療法士

明治四十四(1911)年、十八名のクリスチャン医師により東京の本郷に、白十字会は設立されました。昭和十七(1942)年、国民病結核の治療のための大気安静の地に、陽当りのよい八国山の南丘稜に村山療養園が開所されました。

その後戦後の混乱期を経て、昭和三十年代後半、結核の治療法は確立され、高齢者の医療への転換期に入りました。

昭和四十二(1967)年、特別養護老人ホーム、白十字ホームが開所されました。当初からサナトリウム時代に実施されていた作業療法は引き継がれておりましたが、昭和五十五(1980)年、東京都の在宅老人機能回復事業として地域へオープンされました。



その後、平成二(1990)年、東村山の最初の高齢者在宅サービスセンター八国苑が正式に開所されましたが、以前から参加されていた地域の方達を基盤にして毎年利用者は増えています。二十五年を経て毎日五十名を越え、かつてのゆったりしたスペースは満杯になっております。

白十字会はこの百年、時代のニーズに答えようと先駆的ともいわれる事業の数々を試みて現在にいたっております。

八国苑は、施設から地域へ、在宅に必要なサービスをうける拠点になり二十五年を経ました。職員も東村山の住民が多く地域にかかわるというより地域ぐるみ、ボランティアにも支えられての現在です。

昨今、消費税を皮きりに、医療・年金に加え介護の現場は、厳しい現実の中にあります。

自助・介助に加え共助の時代です。八国苑という場で出会った利用者、職員が一日一日を丁寧にむき合い、楽しんで時間を共有していかれることを願っております。

一作業療法士として、サナトリウム・病院・ホーム・八国苑と共に時を刻んでまいりましたので、白十字会の変遷の一端を少しでもお手伝いしたく、お祝の言葉とさせていただきます。

